

令和6年度「聖籠町幼児教育推進体制を活用した  
地域の幼児教育の質向上強化事業」  
有識者会議 次第

日時 令和7年2月20日（木）13時30分～15時

場所 聖籠町役場 大会議室

次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 説明・協議

- (1) 令和6年度本事業取組報告
- (2) 令和7年度の事業計画について
- (3) ご助言・ご感想・情報交換
- (4) その他

- 5 閉会

# 令和6年度「聖籠町幼児教育推進体制を活用した 地域の幼児教育の質向上強化事業」 有識者会議 議事録

令和7年2月20日（木） 13時30分～15時  
聖籠町役場 大会議室

## 【協議】

(事務局)

それではまず感想を含めてでもいいので、どなたからか発信いただけるとありがたいです。

(委員)

本当に素晴らしい取り組みをしているので、すごいなと思っています。小学校の先生方は何年か続けて参加されて、1年目、2年目と参加した中で発言がこんなふうに向上了とか、こんな反応だったとか何かあれば教えていただきたいと思います。また、今回研修会に中学校の先生方が参加されているというのはすごいなと思います。中学校の先生は初めて参加してどんな感じだったのか、具体的な姿など何かあれば教えていただきたいと思います。

(事務局)

小学校の先生を初めてお招きしたときは、やはり保育をどういう視点で見ているか分からないところもあり、どちらかという園の先生方が一生懸命お話しし、校長先生も頑張ってお話をするような感じでした。ですが、やはり年数を重ねるうちに10の姿から見るという視点もだんだん分かってきて、小学校の先生方も協議会で積極的に話す姿が見られました。今回、中学校の先生にも初めて参加していただきましたが、とても積極的に意見を言ってくださって、本当に町の12年カリキュラムが繋がってきたのを感じました。

(事務局)

中学校の教頭先生の感想ですが、「大変有意義であり、子ども中心の教育という部分で中学校ではなかなかできていない視点をいただいた」と言っていただきました。教師側の環境づくりという面で気づきがあったという感想を得ました。

中学校の研究主任の先生からも、「共同性とか伝え合いという部分においても、中学校も小学校でも園でも実際上手にやっている。そこをいかに意識して子どもたちと向き合っていくか」という感想をいただきました。聖籠町では12年カリキュラムをやっているのですが、中学校の先生もお呼びしました。他にいかがでしょうか

(委員)

こういう会議に保護者の方が参加してくださるとするのは非常にありがたいと思います。センターにも質問したいのですが、まず、保護者代表の委員さんにお聞きしたいことがあります。小学生と中学生のお子さんがいらっしゃるというお話をされたと思いますが、園から小学校に進

学するときに、どんなところが不安だったとか、どんなサポートがあると安心だと感じたかを教えていただくとありがたいです。

(委員)

3人の子どもで経験をしているのですが、子どもが幼稚園の時は保護者も小学校に行ったことがなかったので、まずどんな環境なのかということをしごく知りたいという不安でした。入学説明会が後半にあるのでもう少し早めにやると安心するなと思ったのと、保護者は小学校に1回か2回しか行かないのでもう少し行く機会があるといいなと思いました。子どもと一緒にいった時にも、子どもはこちらで保護者はこちらだと別々だったので、一緒に回れたらいいなと思ったこともありました。

(委員)

お子さんの様子を見ていて、こんなふうに先生が関わってくれて嬉しかったと言っていたとか、こんなことを先生がしてくれたと言っていたことはありましたか。

(委員)

私の子はあまり学校の話をしてくれなかったのですが、年長の時は子どもたちがみんなで協力してやろうという頑張りとかがよく見えたのですが、小学校に行くと1年生はあれしてこれしてというように幼く扱われるイメージがあって、もう少し自分でできることがあるなと感じたことはありました。

(委員)

ありがとうございました。今のお話は、やはり架け橋を進める上で非常に大きなお話だと思います。園で育ってきたこの力を、受け入れる小学校側がどのように踏まえて小学校の教育課程を作っていくか、そういうところがポイントなんだろうということを今のお話をお聞きして感じました。

(事務局)

ありがとうございました。町には小学校が3つありますが、スタートカリキュラムでこんなことをしていますと丁寧な週案をお配りしているところもあります。また、この間新1年生の体験入学はありましたが、親御さんが学校に行く機会はなかなかないですね。

(委員)

何回もお話でてきたように、子どもを中心に据えているというのがやっぱり一番のポイントで、私たち大人が一生懸命やること、結果的に子どもがどう変わったかというのが最終的な成果であるし、評価のポイントになると思います。架け橋プログラムやいろいろな職員の研修を続けてきて、手応えとして子どもはこんなふうに変わってきたとか、こんな成果が出てきているのではないとか、子どもの変容として捉えるとどんな姿が見られているのかお聞かせいただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。園小合同の研修会に参加した感想には、園の様子を見て生活科のスタートや朝の会でこんな工夫をしてみたい、あるいはこちらから決めずに子どもの話を待ってよく聞いて決めていきたいという声がありました。その大人の変化が子どもたちの姿につながり、小学校でも安心して発言したりたくさんおしゃべりしたりしているのを感じます。いろいろな学校の学級で1年生が堂々と元気に発表しています。

(委員)

ありがとうございます。その年その年のお子さんの学年の特徴があるので、昨年の1年生と比べてと言ってもきっとあまり意味がないかもしれませんが、1年生を何年間か見ている中で、今まで不適応を起こしがちだった子どもの数が次第に減ってきたとか、1年生に入っただけで元気に発言したり活発な姿が増えてきたりしたとか、そんな変化をやはり感じられているということですね。

(事務局)

実際、私自身が見てというより1年生担任に「架け橋メッセージ」について聞き取りをしましたが、園の先生が5歳児の子どもたちのここが一番伸びたと最後に思いを込めて書いた、子どもたちの強みがいっぱい書いてあるメッセージを、1年生担任が手元に置きながら子どもさんとかかわることで子どもの強みは実際に書いてある通りだったという言葉もありました。このことは、架け橋メッセージのこれからの可能性だと思っています。

(委員)

私の市でもようやくといいますか、市版架け橋期カリキュラムの骨子とかカリキュラムが作成されまして、それを小学校にもおろして、改めてスタートカリキュラムを見直しながら各校で来年度に向けて作成をしているところです。その中で会議が何回かあったのですが、園長先生と校長先生の集まりの中でお話をしていると、現場で子どもと一番身近に接している方、聖籠町さんでいうと来年度5歳児担任と小学校1学年担任が集まって行うような会議が計画されているのですが、そういう子どもに一番近い人たちの意見を上手に吸い上げるやり方がこれまであったかと思います。そしてまた、1校に7園も8園もいろいろな園から子どもが来る関係で園長先生と話をしていると、いろいろな園の願いもあって、園から小学校へもきっと何かこんなふうに学校でしてほしいとか、そういった要望もあったのではないかと推察します。そういう中で、今聖籠町のカリキュラム等ができていないのではないかと思います、具体的に園から小学校の方に何か求められたものがあるのかどうか教えていただけたらと思います。

(事務局)

園から小学校に求めるものというのは、そんなにないのではないかと思います。現在行っている体験入学も、学校生活を知るにはいい取り組みだと思います。

(委員)

この前の園小の会議で要望として多かったのは、行事とか計画したものではなくて、日常的な1年生の授業をふっと来て何も準備しないので見せてもらえたらありがたいというお話でしたので、いつでもどうぞとお答えしました。また、保護者については、交流活動をやる際に複数の園から来ているので、保護者が子どもを連れてきてそのまま保護者も一緒に子どもの交流活動を全て見学するような形をとっています。このやり方はいいなと感じました。

(事務局)

ありがとうございます。同じ点について、同じ敷地内に園と小学校がある委員さん、またはこれまでにそういう経験がある委員さんにお話を伺いたいと思います。

(委員)

うちの幼稚園は小学校と同じ敷地内になっています。今は離れてしまいましたが、何年か前まではつながっていました。場所柄、うちの年長さんは「お邪魔します」と言って小学校に寄せてもらい、「今日は何々を調べたいから図書館に寄せてください」と言って校長室にちゃんと挨拶をして図書館に行く。その道中に他の先生に会えば、「この先生は何とか先生って言うんだよ」と言ってその先生の得意なことをまた担当が話すなど、子どもたちは本当に親しみを持ちながら小学校に寄せてもらい、校長先生も「どうぞどうぞ」とおっしゃってくださっています。ですので、小学校に行くのを本当に楽しみにしています。

(委員)

以前勤務した幼稚園は、小学校の附属みたいな感じで校庭でしっかりつながっています。幼稚園自体が非常に豊かな園庭に恵まれていて、さらに小学校はもっと広大な校庭があり環境に恵まれているところです。秋は落ち葉を集めに行ったり、小学校の校庭にあるどんぐりをいっぱい拾ってきたりしています。特に幼稚園の子どもたちのニーズがある時は、お願いもしますが本当に出入りが自由な状態ですので、小学校の子どもが前庭で遊んでいたりで、こちらが何か拾っていたりすると自然に小学校の子どもたちと会います。また、学校のマラソン大会などがあると子どもたちがワーッと走っていくので、園児たちが「頑張れー」なんて言って自然な関わりができています。

職員に関しては、園長・小学校長を含め非常に今架け橋期教育に関心を高めていらっしゃいます。つい先日も第4回架け橋会議ということで、各学年の実践や資質能力ベース・10の姿という部分でどういうふうに幼稚園あるいは幼児教育・保育で培った資質能力が発揮されているのか具体的な場面を、1年生から6年生担任までがいる会議だったようですがそれぞれの学年がお互いに伝え合うような活動をしているようです。

うちの新採用2年目の男性の1年生担任ですが、「本当に自分がいかに幼児教育期に成長してきた子どもたちを理解していなかったかということがよく分かりました」と言ってきました。「もっとつながりを意識していたら、子どもたちももっと笑顔になれたと思うとすごく悔しいです」と言っていて、すごいなと思って聞いていました。

(委員)

うちの幼稚園は、小学校からも児童さんたちに来てもらっています。昼休みのほんの25分間ですが、初めは高学年が3クラスあるので今日行きたい人を集めていたのですが、すごい人数になってしまって園の人数が少ないのでそこまでまかなえないということで、だんだんクラスごとになりました。ただ、学校の先生からはちょっと何かあると悪いし、怪我をしたり危ないことをしたりしても悪いというので先生たちがついてきてくれます。2グループに分かれて年長・年中に行く子、年少の方に行く子に分かれてそれぞれ遊んでいきます。今はなかなか外で異年齢の子たちが遊ぶ姿は見ませんよね。それを今幼稚園の中でやっているのかなという場面がたくさんあって、背の高い子が小さい年少に腰をかがめて話をしたり、帰りは小さい子たちが「一緒に行くよ」と手をつないで送りに行ったりするような場面があります。そうすると、終わってから小学校から感想をいただきます。きっと学校側にしてみればほんの些細なことですが、自分の考えを文字にするということもきっと勉強になっているのかなと思います。感想には、「小さい子と一緒に遊べて、自分はこんなことをして良かった」とか、つい最近では1年生が自分たちのやったことに加えて「小学校は楽しいところだから待ってるね！」なんていうことも書いてくれていて、そんなつながりがあります。

でもこれは、やはり先生方同士が顔見知りにならないとなかなかうまくいかないことだなと思っています。この活動をずっと続けてきて、今年度窓口がしっかりしたのでやりやすくなったとうちの担当は言っていました。誰に言えばいいのかなということも、一つの窓口でそこを通していろいろな交流ができるようになったということがありました。

(事務局)

ありがとうございます。小学校の子どもたちが、架け橋期という二年間ではなくてもっと長いスパンで園の子どもたちと自然と交流している姿は、想像しただけでも羨ましいなと思いました。

聖籠町でも園小で交流をするうちに、小学校の先生方が、入学してきた子どもたちは実はできることがたくさんあるという気付きに変わっていきました。

(委員)

昨年幼稚園に勤務しておりました、今年からまた小学校に復帰しました。実際はコロナ禍の影響もあり、近隣に私立園しかありませんが交流がほとんどなくなった状態がここまで続いていたという状況でした。そんな中で今、架け橋メッセージは素敵だなと思います。私たちはやはり先ほどもお話がありましたが、先生同士がなかなか顔の見えない状態の中で、小学校はいきなり1年生から習得型に入っていこうとする。決してその担任を責めているのではなくてそれが常だったからです。ですが、その名残というのは多々ありまして、例えば幼稚園や幼児教育施設とクラス編成の資料ではないですが、情報交換をするときに今年も体の大きさとか体を動かすのが好きといった項目のままです。でも、体の大きさはどんどん変わっていくものですし、男女の別は一応均等に分ける必要があるかもしれないけれど、知りたいことあるいは園の先生たちが知りたいことや知ってほしいことはその子だと思います。その子の成長、そういったところにしっかりスポットを当てたこの架け橋メッセージは非常に価値深いものだなと思って勉強になりました。むしろ、私たちが情報として欲しいのはこの子がどんなことを頑張ってきたのか、どんなことに

興味があるのか、何がきっかけになってもっと成長を図れるのかという何かのヒントだろうなと思います。そういった部分ですごく学ばせていただきました。一方で、やはり小学校の先生がその習得型から抜け出るために、もっと一人一人を語れるようになるためにも、もっと幼児期の子どもたちの育ちを敏感に見ていかなければいけないということを問題意識として持っています。

当校の全ての1年生の出身園は15を超えます。ですが、1学期に遅ればせながら学習参観があったときに園の先生方をみんな呼びました。そして、最後にお茶を飲んでお菓子を食べながら語り合おうというふうにしたら、ほとんどの園からいらっしゃいました。たった一人しか入学しない園からも参加してくださいました。つまり、幼児教育にかかわる先生たちは、もっと自分たちが育ててきた子どものことを知ってほしいと願っていると私は捉えました。ですので、今後もそういう機会を捉えながら学校を開いていきたいなと思っていますが、やはり小学校の先生が変わらなきゃいけないのではないのでしょうか。見えていない子どもがどれだけ自立しているのか成長しているのか、しっかり見ていかなければいけないと思っています。

私も改善していこうと思いますが、そのあたり聖籠町でも小学校の先生たちが援助や環境構成の素晴らしさ、そこにもっとスポットを当てて学んでいくと、資質能力ベースあるいは指導技術も含めてお互いが学び合っていけるようになると思います。

#### (事務局)

ありがとうございました。架け橋メッセージについて肯定的なお褒めの言葉をいただきありがとうございます。園の先生方の援助や環境構成、一つ一つの言葉であったり表情であったり、見つめる視線とかは学びになると思います。

#### (委員)

B委員さんのお話、まさしくその通りだなと思いながら聞かせていただきました。ありがとうございました。B委員さんみたいに小学校教員ですが幼児教育にご経験があったり、幼児教育に対して深い理解をされている方がリードしてくださったりすれば、架け橋も一気に取り組みが進むんだろうなと思います。一方で、なかなか小学校現場も忙しくて幼保小の合同会議もそんなに頻繁に集まれないとか、架け橋について多忙化を理由に後ろ向きな発言をされる方も少なからずいるのが現状かなと思います。県としてもそのあたりが大きな課題だと思っていて、小学校側の理解が進むとこの架け橋も一気に進むと思うのですが、小学校への理解の啓発について県としてこんなふうにとか、聖籠町にこんなことを期待するとか、そういったところがあればお聞かせいただけるとありがたいなと思います。

もう一点、次年度の幼児教育センター事業についてですが、小学校への定期訪問を開催されるということでお聞きしています。これは副参事を中心にされることでしょうか。小学校への授業改善の支援、これをどのように進めていくかイメージがあればお聞かせいただけるとありがたいなと思いますし、何かここをどうしようかなと困っているところ、多分、聖籠町が困っていれば他の市町村もみんな困っていると思うのですが、そこは県で支援していかなければいけないポイントなのかなと思います。何かこの事業を進めていく上で、ちょっとここはまだ不安なんだとかここはまだ乾ききっていないんだとか、そういったところがあればご指摘いただけるとありがたいと思います。

(委員)

難しいですね、それは本音です。だから、やはり新しいことを始めるエネルギーは大変だなと思います。システムとしては新採用教員、申し訳ないですけど経験のある皆さんはある程度時間がたとえ短くても、小学校教員も子どもを見る目はすごくあると思っています。一人一人を語れる見取りの深さという部分ではもう学ぶしかないと思っています、うちの職員に本当に今欲しい力は子どもを見取る力、一人一人を語れる力、そのことによって様々な保護者対応とかそういうことももっと信頼感を持ってやれると思っています。それが起爆剤になり、私たちもすごく学べると思って幼児教育をどんどん学校に引き入れていきたいと思っていますが、新採用教員についてはその研修の中で1時間見るとか半日見るということではなく、やはり1日でもいいので一日の流れで見えるように組んでいただき、そういう部分で計画的にやっていただきたい。ただなかなか難しいとは思いますが、やはり初任研に加えて組み込んでいくことがすごく大事ななと思っています。私が今当校でやっていることは、そういうシステムとして新採用研修あるいは中堅研修とかそういうところに必ず組み込む。しかも1時間、最低でも半日、子どもが朝登園するところからぜひ見てほしいと思います。どんなふうにして先生たちがお子さんたちを迎えているのか、それを見るだけでも先生たちの感覚がすごく耕されると思っています。

(事務局)

朝のお迎いの時の先生方の表情や保護者さんとの会話などは、本当に大事ななと思います。園と小学校がお互いに共通理解し合うには、やはり何か意図した活動が必要だと思います。聖籠町では、各園・小学校の5歳児担任・1年生担任に架け橋期コーディネーターの役割を担ってもらい、今年度その方たちに集まってもらって架け橋期カリキュラム検討委員会を開催いたします。

また、聖籠町では、私を含めて小学校に幼児教育センターの人が入って授業を見て回っても、全く気にされないという利点があります。1年生の先生が急にかしこまったり警戒したりすることはありません。さらに、副参事も授業を見に行っているので、1年生・2年生の授業を副参事が見に行く時に幼児教育センターの架け橋期コーディネーターも一緒について行って、どんな振り返りをするのかを見ていきたいと思っています。

(事務局)

私は小学校に指導主事として学校訪問をさせていただいていますが、今年度は新しく聖籠町に来られた先生方を中心に若手の先生方の授業を見させていただいています。その中でやはり聖籠町では幼児教育との連携をすごく大事にしている、小学校の低学年の先生方を中心に保育園の研修にも参加させていただいているので、子どもたちそのものの分かり方だったり、子どもたちの思考、子どもたちの児童理解という視点を大事に授業を組み立ててほしいなということを常々お話しさせていただいております。そういうことも視点として持ちながら、また今までできるようになったところからどのようにできるようになっていくのかを繋げて考えることを大事にして、授業をする上でもそういう意識を持って授業づくりをしていただきたいと思っています。来年度もそのような形で進めていきたいと思っています。

(事務局)

心掛けているのは、また新しいことをやるというよりも、今、既存にあるものでいかに我々の目標を達成できるかというところがあるのかなと思っています。

(委員)

授業を見るのは、園の先生が見るのとはまた別にやるってことですか。

(事務局)

はい、園の先生は4月の後半に新1年生の授業を見て、架け橋メッセージを使ってその振り返りを担任の先生方とやるのですが、その後に園の先生が1年生の授業を見に行くということは今のところはまだありません。先ほど委員さんがおっしゃったように、今ぐらいの時期に一年育った子どもたちを見てもらうというのがとても素敵だなと思いながらお話を伺いました

(委員)

今年赴任した学校では先ほど話もありましたけど、園の先生が年に2回ぐらい休み時間を見たいと言うんです。幼児教育関係の皆さんは、休み時間だと子どもが自由に遊んでいる姿を見ることができて、何をしてるのかをより近い形で見えると思うので、そんな場もいろいろつくっていくのがいいと思います。形式ばることも大事ですが、そうではない場面もたくさん見てもらって学校を開いていけばいいなと思っています。

(事務局)

ありがとうございます。形式にこだわらずいつでもどうぞということと、普段の姿というか子どもの姿を見合うということですね。

(委員)

以前お話にあった架け橋メッセージが現実になって、本当にすごいなと思います。ありがとうございました。やはり良いところを伝えていくのはいいなと思うので、架け橋メッセージは続けていってもらいたいなと思います。また、架け橋メッセージを送った園の先生が振り返りとして、後日1年生を見に行くと子どもの成長を見るのもいいなと思いました。

ただ、園の先生の仕事の負担がすごく大変ではないかちょっと心配で、やはり子どもたちと直接関わって日常を大事にしてほしいので、減らせる業務を減らして楽しくやってほしいなと思いました。

あと、園・小・中学校の合同研修会があったと思うのですが、幼稚園と中学校では離れているので、中学校へのつながりをどういうふうに考えているのかももう少し具体的に教えていただきたいです。

(事務局)

ありがとうございます。架け橋メッセージは園の先生の負担になっていないかということですが、指導要録の一部を活用し字数制限をして子どもの良い部分を書いていきたいと思いますという方法

でやっているのので、概ね肯定的なご意見いただいています。

中学校へのつながりについては、教育長が最初に言ったように聖龍町の12年カリキュラムということで、教育委員会としてより多くの中学校の先生方から子どもの成長、あるいは遊び・学びのつながり、連続性を一緒に感じていただければという思いで声掛けをしています。

(委員)

中学校の先生も、やはり園の様子を見るといいなと思いますので続けていってほしいです。ありがとうございます。

(事務局)

そういうご意見いただきましたと、中学校にしっかりと伝えていきたいと思います。ありがとうございます。

(委員)

聖籠町は、公立だけではなくて私立もみんな一緒に横のつながりができた上での1年生との架け橋になっているんだと理解しています。今までのカリキュラムがみんな共通になって各園で保育しているととてもいいですか。

(事務局)

指導計画の作成は各園ですが、私立園に対しても「ここだったら、こういうやり方を大事にした遊びができますよ」などポイントをお話しています。また、とても協力的だなと思うのは、各園が指導計画を毎月提出してくださっていることです。昨年度の途中からお願いしましたが、「いいですよ」と全園に言っていただき、各園の指導計画を参考に指導の手立てを考えています。

昨年度は3・4・5歳児分だけだったのですが、今年度は0・1・2歳児分も提出していただけるようになり、全学年のものをいただいています。来年度は、年度初めに出る教育計画もいただきたいなと思っています。

(委員)

そうですね。私立さんはやはりうちはこういうやり方というのがしっかりあるので、そこをつなげるのは大変だろうなと思います。でも、やはり聖籠町さんにはみんなで取り組もうというスタンスがあって、幼稚園も保育園も小学校もアドバイザーさんが入り、行政がちゃんと入ってこのシステムが動いているのはすごく羨ましいなと思いました。

プレゼン資料にある架け橋期カリキュラムの改善後の一例で、こども園の「生活する力」として「自分のこととして見通しを持って取り組む活動」とあって、例えばこういう項目が大事だということが皆さんのところで共通になっていきますが、やはりどんなふうにも子どもに下りていくかという過程が子どもを育てていく上で大事だと思います。そういうところが見えると、園でこんな経験してきたんだというのが小学校で受け止めやすくなるのではと思っています。小学校の校長先生はどうですか。

(委員)

架け橋期カリキュラムに、例えばとして細かい活動内容が書いてありますが、それをどんなふうに子どもたちに下ろしていくと子どもの育ちにつながるか、資質能力になっていくかというような見方をしないと、小学校の先生たちには伝わっていかないのではとずっと思ってきましたがどうでしょうか。

(委員)

どんなふうという方法論のところになってきてしまうと、やはり小学校にも小学校の教育課程があるし、幼児期にも教育課程や保育の課程があるわけなので、やはり1年生もそうですけどお互いに担当を決めてしっかり時間をかけて確認していく作業が必要になってくるんだろうなと思います。

まず、現段階では当市はそういう部分では相当一歩目が遅かったというところが否めません。そういう部分では今ようやくといったところなのでなかなか難しいところだと思うのですが、少なくとも担当がしっかり役割として各校・各園に位置づけられ、そしてどこを大事にしていくかというのを時間をかけて協議していくしかないと思います。実際の部分は、結局見たり聞いたりしながら担任があるいは学年が機動力を発揮し、アイデアを出して自由にやっていけるところがたくさんあるのでその年はいいのですが、持続可能性を考えた時にやはりそこがブレていく難しさがあるんだなと思って聞いていました。

(委員)

そうですね。1年生とやっとながったかなと思うとまた担任の先生たちが変わり、またゼロから始まるんですね。今、そんな繰り返しです。

(事務局)

ありがとうございます。園の先生方と小学校の先生方で保育・授業参観をしたときに、お互いの先生たちの思いもありますので、視点をつくるのは難しいことだと思います。町では、「生活する力・かかわる力・学ぶ力」で見ていきますし、10の姿をお互いに視点として話し合い、そこに加えて架け橋メッセージも使っていくようにしています。

今日お配りした聖籠町発達支援集も、作っていく過程に参加していて本当に楽しかったです。園長先生が子どもの育ちについて何ヶ月毎の細かいところまでお話し合いしている姿を見て、こういう姿が学びなんだなと思いながら過ごしていました。ありがとうございます。

それでは、最後に座長より総括ということでお話ししたいと思います。

(委員)

私は、とにかくまず、聖籠町幼児教育センターのこれまでの活動をまとめた一覧表がとても素晴らしいと思っています。ずっと数年間の歴史が分かり、何がどう変化したのかがすごくよく分かるので他の人も勉強になるし、ご自分たちがどう変わったのかを見るのも非常にいいと思うので素晴らしいというのが一つ目です。こういうことをやるのが振り返りになり、自分たちにとってもすごく重要だなと思っています。

また、昨年幼稚園にはもう十分力を入れているので、次は小学校に力を入れたらと思っていました。小学校が変わることが実は幼稚園にも影響を与えるので、今度は受け取る側の小学校の方に重点を置いてもいいのではないかと考えていましたが、聖籠町はすごく着実にやられていますし、さらに私の中では中学校も含める発想がなかったのですごいなあと感じました。

二つ目は、これは当たり前ですがやはり効率が大事です。今は効率がいくら良いことでもお金と時間がかかることは無理です。聖籠町ではオンライン研修をやっていましたが、こういうものをうまく使っていくことはとても重要だと思います。また、カリキュラムの見直しでも、地道に僅かずつでもいいからやっていくということが効率という面でも業務的にも大事なので、ぜひこれからも大事にしていきたいと思います。

三つ目はそれに加えて、やはり道具が使いやすいというのが大事です。すごく高級でいいものがあっても使うのが疲れるみたいなものもあります。そういうものは今の時代では使えないと思うので、やはりこの項目はいらぬかなという感じで、どんどん聖籠町の先生方が使いやすいものに変えていくということが大事だと思うので、ぜひこれからもやっていただければと思います。

四つ目は、7年度もまた新しい活動が計画されているのは素晴らしいですし内容的にもさすがだと思います。しかし、ぜひ辞めるもの、例えば2回やったのを1回にするなど減らすものも若干工夫していただかないと、さっきも言ったようにマンパワーの限界やお金もあるので、だんだんある程度良くなってきたものを減らし、新しいものを思い切ってやっていただいているといいと思います。

最後ですが、他の市町村に向けて還元していくというのが本当に素晴らしくて、すごいなあと感じます。ただ、刊行物やホームページや研究紀要などは悪くはないのですが、やはりそこに来てくれてこんなことに悩んでいるんではないかとされた時に、聖籠町ではこんなふうにやったんですよと言うと全然入り方が違うと思います。こちらが得たノウハウをそちらで生かせそうなものはありますかと紹介されると、大変ありがたいと思います。

私としては先ほどお話にあったように持続可能というのは本当に重要なので、ぜひこれからも工夫していただき、またいろいろなところに発信して他のところも変えていただくアイデアやパワーをいただければと思っています。

(事務局)

ありがとうございました。それでは皆様、大変お忙しい時期に、また天候も落ち着かない中、本日はご参集いただきましてありがとうございました。本日はいただきましたご意見等をまとめまして、来年度の事業計画に活かしてまいりたいと思います。引き続き有識者会議は継続しますので、4月に入りましてまたご連絡を差し上げたいと思いますのでよろしくお願いいたします。